

感染症を読む



都甲幸治

もちろん僕も家にいる。COVID-19（新型コロナウイルス）のせいだ。そして空いた時間は、つい感染症に関する本を読んでしまう。ジャレド・ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄』（草思社文庫）は衝撃的だった。彼はこう問う。ニューギニアや南北アメリカ先住民は結局西洋に支配されることになった。それはなぜか。白人とそれ以外の人種的な優劣が原因でないとすれば、それ以外の理由は何だろうか。

彼が指摘するのが、環境的な要因である。ユーラシア大陸は東西に長い。しかも地理的な障壁も少ない。だから同じ緯度に暮らすたくさんの人々が様々なアイディアを出し合いながら、互いに高め合いやすい。しかもたまたま家畜化できる動物と、農業化できる植物に恵まれていた。こうして食料生産が進み、巨大な人口と軍勢力が蓄えられることになった。家畜と人間の混在により多様な感染症が人間に取り付き、人々はそれに対する免疫も身につけていった。

それに対して南北アメリカ大陸は東西が短い。そして西暦1500年以降、ユーラシアとその他の世界が直面したとき、圧倒的な軍勢力と感染症によって、ユーラシア側は勝利を収め続けたのだ。そしてその結果は、世界規模の格差として現在まで続いている。

白人優位の世界は白人が優れていたからではない、単にユーラシアに偶然住んでいたからというだけで、というダイヤモンドの説に僕は心底驚いた。もちろん、人種が捏造された概念でしかなく、人類には1つの種しかない、という科学的な事実は知ってはいた。けれども、捏造されたと指摘するだけでは人は解放されない。現に目の前に巨大な格差が存在するからだ。

かつてレヴィ＝ストロースは、西洋だけが進歩しているのではなく、世界中の全ての人々が環境に合わせ

た進化を遂げているのだと主張して西洋中心主義を批判した。しかしこうした相対主義では足りない。どうして西洋が世界を支配しているのかの説明がないからだ。そこにダイヤモンドはきちんと答えている。

ダイヤモンドの環境決定論を読んで、「それじゃあ一人一人がどれだけ努力しても意味がないのでは」と思った人もいるかもしれない。だが『危機と人類』（日本経済新聞出版社）で彼はそうした考え方に反論している。日本やチリなど世界の国々の危機対応について語りながら、現実を見据える力と、柔軟に自己を組み替えていく力も持った人々は人種や環境とは関係なく、生きのこる力を持つ、と彼は説く。

ここでも彼は、安易な人種主義を退けている。しかも環境決定論は宿命論とは違うと強調する。こうした、人はどこからでも状況をよくしていける、という信念に僕はたまらなくアメリカを感じる。ほとんど根拠なき自己信頼としてのアメリカだ。

最近、僕は『引き裂かれた世界の文学案内』（大修館書店）、『世界文学の21世紀』（Pヴァイン）、『「街小説」読み比べ』（立東舎）と3冊をほぼ同時に刊行した。日本や海外の文学、アート、映画などについて語りながら僕が繰り返し強調したのは、少数派からの視線を忘れるな、ということだ。

人種的な少数派や貧しい者たち、移民など、弱い立場の人々は多数派とは違う方法で世界を見ている。そして彼らに寄り添うことこそ芸術の役割だと僕は思う。だからこそ、差異を直視しながら現状に甘んじない、というダイヤモンドの精神は僕を鼓舞してくれた。僕らはどこからでも進んでいける。そして声を届けることができる。そのことを彼は持ち前の楽観を通して教えてくれる。（とこう こうじ・早稲田大学教授）

大学入学共通テストの概要と 受験指導



佐藤誠司

この記事では、主に次の2点を説明します。

- ・共通テストの基本的な性格と今後の展望
- ・センター試験との違いを考慮した、共通テストの対策学習

最初に頭に入れておきたいのは、2021年度から実施される共通テストは、少なくとも英語に関しては最終形ではないということです。具体的にどう変わるかを予想するのは困難ですが、センター試験のように10年も20年もほぼ同じ形式・内容の試験が続くとは思えません。日本学術会議から8月18日に公表された「大学入試における英語試験のあり方についての提言」でも、多くの課題が指摘されています。今後とも試験の変化に応じた適切な対応が求められるでしょう。

I 共通テストの基本的な性格

公表されている「問題作成方針」には、次のようなことが書かれています。

- ① 4技能のうち「読む」「聞く」を評価する。
発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は作成しない。
- ② CEFRのA1～B1レベルに相当する問題を作成する。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- ③ 「概要や要点を把握する力」「必要とする情報を読み取る【聞き取る】力」などを測る。
- ④ リスニングには1回読みの問いも出題する。
- ⑤ 筆記とリスニングの配点を均等にする。

※ただし配点比率の決定は各大学の判断に委ねら

れており、実際には多くの大学が筆記試験の配点を高くしています。

- ⑥ アメリカ英語に加えてイギリス英語の使用もありうる。リスニングの音声は、多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。

また試行テストの問題を見る限り、全体的にセンター試験より共通テストの方がやや難しいと言えそうです。特に、問題量の増加への対策が必要でしょう。参考までに、直近のセンター試験と試行テストの（100点満点に換算した）平均点を比較しておきます。

試験名	筆記	リスニング
①センター試験	58.15	57.56
②試行テスト	51.15	58.82

※①は2020年度本試験。②は第2回（2018年11月実施）の高3生の平均点。

II 入試制度の変遷

大学入試（英語）の大きな変更の歴史をまとめると、次のようになります。

1979年	共通一次試験がスタート
1990年	センター試験がスタート
2006年	センター試験にリスニングが加わる
2021年	共通テストがスタート
2025年	新制度がスタート予定（内容は未定）

共通一次試験は、国公立大だけが利用する試験でした。センター試験は私立大にも門戸を広げたため、これを合否判定に使う私立大が増加しまし

た。さらに「リスニングの力も測りたいが、自前で問題を作るのは難しい」という大学側からの要望に応える形で、2006年からリスニング試験が加わりました。こうした経緯から考えて、今回結果的に挫折した「入試改革」のもとでの発想は次のようなものだったのでしょうか。

信頼できる英語の試験がほしい→英語教育の目標を考慮すれば「4技能試験」が望ましい→しかしライティング・スピーキングの採点は技術的な課題が多く、大学入試センターには作れない→そのノウハウを持っている民間業者の試験で代用しよう（既にかんりの大学が民間試験を合否判定に使っている）

Ⅲ センター試験と共通テストの違い

端的に言えば、センター試験は不完全な4技能試験であり、共通テストは2技能試験です。

英語学習の目標が4技能の習得であることは、ずっと以前から学習指導要領に書かれています。センター試験はその理念に沿って、できるだけ4技能の測定に使えるテストを目指しました。2006年のリスニング試験の導入によって、「読む」「聞く」についてはスタンダードな試験が確立します。一方、「書く」は整序作文（第2問）、「話す」は発音問題（第1問）で判定するのが建前でしたが、それではやはり不十分です。そこで、Ⅱで説明した次のような制度設計が構想されました。

受信力（読む・聞く）は共通テストで測る。
発信力（書く・話す）は民間試験で測る。

結果的に民間試験の利用が見送られたため、共通テストは2技能にしか対応していません。したがって4技能の判定という目的に照らせば、センター試験より「後退」したとも言えます。

Ⅳ 共通テストの今後

国公立大二次試験では英作文が出題されるの

で、実質的には国公立大入試は「3技能試験」です。また公立高校入試も昔に比べれば大幅に質が向上しており、「読む・聞く・書く」の3技能試験としてはかなり優れたものでしょう。したがって「理想は4技能試験である」という前提に立つなら、少なくとも国公立の学校に関しては、高校入試も大学入試も「あとはスピーキングの試験を加えればよい」という段階まで来ています。なお、「実質的に3技能試験ならそれで十分ではないか（共通テストは2技能試験でよい）」というわけにはいきません。共通テストは私立大の利用も想定しており、受験者の多い私立大は自前でライティングの試験を作ることが難しいからです。

将来的にはAIを活用した採点技術が進歩し、ライティングの記述答案やスピーキングの音声を機械で正確に採点できる日が来るでしょう。そのようにして共通テストが完全な4技能試験になるのが1つの理想形です。それが実現するまでは、「共通テストは不完全な試験だ」あるいは「（4技能を測る）センター試験に戻す方がいい」といった声は消えないかもしれません。

もっとも、近年では英検・GTEC・TEAPなど民間試験の成績を入試判定に利用する大学が着実に増えています。たとえ共通テストが今のままであったとしても、大学入試の4技能試験化は今後も進んでいくと予想されます。

Ⅴ 共通テスト対策学習のプランニング

共通テストの筆記・リスニング試験の具体的な出題内容の説明は別の記事に譲り、ここでは共通テストの対策学習を大きな視点から考えます。

センター試験と共通テストの違いを考慮して言えば、次の2点がポイントになりそうです。

- ① リスニング学習の時間を増やす。
- ② 本番の模擬練習をできるだけ多く行う。

センター試験では筆記とリスニングの配点比率が4:1でしたが、共通テストでは4:1、3:1、1:1な

ど大学によってまちまちです。1:1の大学も3割程度あるので、自分の志望校の配点を確認して、リスニングの比率が高ければその対策を重点的に行うとともに、1回読みの出題形式にも慣れておく必要があります。

また筆記試験でも、共通テスト特有の受験技術が必要です。試験時間(80分)はセンター試験と同じでも、設問文も含めて読むべき英文の量が多いため、センター試験以上の速読力が求められます。また、ウェブ記事・広告・レシピ・ブログなど情報提供型の素材が多く出題されるので、読む力だけでなく情報を頭の中で素早く処理する力が重要になるでしょう。さらに、factとopinionを区別する新傾向問題などへの慣れも必要です。市販されている模擬試験問題集などを使って、時間配分を考えながら本番と同じ形式の問題を解くことが、最も効果的な対策学習になるはずです。

VI センター試験過去問の利用方法

センター試験の過去問の多くは、共通テスト対策として使えます。試行テストの筆記・リスニングで出題された問題と似た形式・内容の問題が、過去のセンター試験にも見られます。それらを重点的に学習するとよいでしょう。

ただし、センター試験第2問(空所補充・整序作文)の過去問は、共通テスト対策には向かないと思います。たとえば次の問いは、2020年度センター本試験(第2問)からの引用です。

To say you will go jogging every day is one thing, but to do it is (). (答: another)

共通テストにはこのような形式の文法問題は出題されません。この形(A is one thing, but B is another. = AとBとは別だ)がリーディングやリスニングの素材中に出てくる可能性も低いでしょう。文法問題を解く時間があれば、その時間を別の学習に回す方が効率的です。

VII 文法をどう教えるか

筆者は「文法学習」と「文法問題対策学習」とは別物だと考えており、後者を(4技能以外の)第5の技能と呼んでいます。ここでは仮定法を例として、共通テスト対策を視野に入れた文法指導の方向性を考えます。

仮定法過去は、しばしば「現在の事実の反対を仮定して自分の願望などを表す形」と説明されます。基本形としてIf I had enough money, I could buy the car.のような文が使われ、入試にもたいていこのような形が出題されます。しかし4技能学習との関連で考えたとき、それでいいのだろうか?という疑問を筆者は以前から持っています。仮定法過去の実例の用例を見ると、多くの参考書が軽視している第2の使い方の方が圧倒的に多いように思えるからです。次の文は、第2回試行テスト(筆記)の設問からの引用です。

This recipe would be good if you want to enjoy a hot dish on a cold day.

注意点は次の2つです。

- ① if節中の動詞がwantedではない。
- ② 「現在の事実の反対」を表してはいない。

この文の説明は、基本的には「意味がわかればよい」で十分でしょう。ただし、wouldが使われている理由を理解することは大切です。文章中にこのようなwouldはしばしば出てくるし、作文や会話での利用価値も高いからです。

参考までに、拙著『英文法、何を重点的に教えるか』(大修館書店、2017)で行ったセンター試験の過去問分析の結果の一部を示します。

〈if+直説法〉の文における主節の動詞の形

現在形	36	may / might	9	命令文	6
will	26	could	7	would	1
can	11	should	6	その他	6

この分析からわかるとおり、if節中の動詞が直

説法（現在形）であっても、主節で might, could, would を使う場合はしばしばあります。それらの助動詞の過去形は仮定法過去に由来し、話し手「書き手」の控えめな気持ちを表します。

4 技能学習、あるいは実際に使われている英語をベースに考えると、仮定法の分野で最も重要なのは、こうした控えめな気持ちを表す助動詞の過去形の使い方を習得することではないでしょうか。

現実には、文法の授業で仮定法を教える場合、教師の説明は「第5の技能」に傾きがちです。たとえば、前述の拙著での分析では仮定法過去完了の使用例がセンター試験にはほとんどありませんでした。読解（および会話）問題中に出てきた仮定法過去完了はわずか2件です。対照的に、センター試験第2問（空所補充・整序作文）中には仮定法過去完了の出題例が8件ありました。この例からわかるように、文法問題を解くための知識はそれ特有のものであり、読む力に直結するわけではありません。その認識に基づき、筆者から受験生に1つのアドバイスをします。

「国公立大志望者は、文法問題集を使うべきではない。」

入試では読解問題の配点比率が圧倒的に高いので、読む練習が足りないと合格点が取れません。共通テストにも国公立大二次試験（一部を除く）にも、文法問題は出ません。したがって国公立大志望者は、「読む・聞く・書く」の3分野の学習に集中すべきです。

なお教室での指導に即して言えば、新課程では基本的に「論理・表現」の授業で文法を教えることになるはずですが。旧課程の「英語表現」の場合、自分の考えを自分の言葉で発信する力を養うのが本来の学習目標だったはずですが、実際には（教科書や副教材の内容から判断する限り）「まず文法知識を頭に入れる→それを使って（出題者が想定した）英文を作る」という pattern practice が中心になっていたように思われます。新しい

「論理・表現」の教科書は、そのような「文法至上主義」からどの程度脱却できるでしょうか。

Ⅷ 受験する試験の組み合わせへの配慮

最後に、進路指導の観点から考えます。今日の英語の試験は種類が多く、それらの全部に合わせた学習をしようとするのは非効率です。できるだけ似た傾向の試験を組み合わせで受験し、「このタイプの試験なら対応できる」という力を養うのが効率的な学習方法だと言えます。

最初の分かれ道は、民間試験を受験するかどうかです。受験する場合、プラス面としては「受験機会が増える」、「文法問題対策は不要」、「二次試験対策にも役立つ」などが、マイナス面としては「スピーキング学習が必要」、「受験に要する費用が増える」などが挙げられます。

たとえば広島大学の志望者は、英検準1級に合格すれば共通テストはみなし満点となります。英検でも二次試験でも文法問題は出ないので、その対策は不要です。また民間試験は4技能テストであり、スピーキング以外の3技能の対策学習は二次試験対策とオーバーラップします。

国私併願の場合はどうでしょうか。仮に生徒が「第一志望は国立大です。併願先の私大をどう選べばいいですか」と質問してきた場合、筆者なら「文法問題を出題しない私立大学・学部を選びなさい」とアドバイスします。近年では文法問題を出題する大学は減りつつあり、特に偏差値の高い大学ほどその傾向があります。たとえば慶応大で文法問題を出題する学部はほとんどありません。

* * *

センター試験から共通テストへの移行に伴う最大の変化は、文法問題対策が不要になったことだと筆者は考えています。このことは、共通テスト対策を含む英語の学習・受験指導の中で大きな意味を持ちます。この記事が少しでも現場の先生方のお役に立てば幸いです。

（さとう せいし・有佐藤教育研究所代表）

共通テスト・英語リーディング 対策で大切なこと



福崎伍郎

■共通テストでも文法力は必要

共通テストでは、文法問題の出題がなくなるという話を聞いて、「文法の学習をしなくてもよい」と誤解している生徒が少なからずいるようです。しかし、文法の知識とそれを活用する力なしに対処できるほど、共通テストのリーディングは甘いものではありません。

出題される英文を読む場面と問題を解く場面の両方で、文法の知識とその活用力が問われることを、生徒に理解させることが指導上重要です。

まず、英文を読むという場面について見ていきましょう（以降第2回試行調査より）。

- (1) You have received a note from Amelia, an Assistant Language Teacher (ALT) and the club advisor. (第1問 A)
- (2) Our town's three sister cities in Germany, Senegal, and Mexico will each send ten young people between the ages of 15 and 18 to our town next March. (第1問 B)
- (3) One potential obstacle for women to become pilots might be the stereotype that has long existed in many societies: women are not well-suited for this job. (第6問 A)

(1)は CEFR A1 レベル、(2)は A2 レベル、(3)は B1 レベルですが、レベルが上がるにつれて文構造が複雑化しています。特に、(3)の英文は、語彙レベルが高いだけでなく、意味上の主語を伴う不定詞、関係代名詞節、コロンを用いた言い換えが

絡むことで、かなり読みにくなっています。このような英文を速く正確に読み進む読解力が、特に B1 レベルの問題では求められているのです。

ところで、B1 レベルの出題はリーディング全体でどれくらいの割合を占めるでしょうか。第2回試行調査では、100点中60点もの配点が B1 レベルの問題に与えられています。本番がこの通りになるかはわかりませんが、準動詞、接続詞、関係詞などの文法知識を読解に活用する力をつけておくことは、平均点（第2回試行調査では51.25点）を超えてある程度の高得点を狙う生徒には必須の条件であると言えるでしょう。

次に、問題を解く場面です。第2回試行調査では、第3問 A で、本文の If it had been sunny, they could have danced outside. という仮定法過去完了の英文が表す状況を選択肢から答えさせる問題（正解は、The dance show was held inside due to poor weather.）が、文法知識の活用力を見る問題として出題されました。A1 レベルということもあり、正答率は87.5%と高く、このレベルの問題なら普段の授業で十分対応可能であると思われます。共通テストでは、高度な文法知識を問う出題はないので、あまり心配する必要はないでしょう。

■リーディングスキルと思考力・判断力の指導が大切

共通テストでは、英文の量がセンター試験に比べて大幅に増えるだけでなく、英文のタイプもメモ、ブログ、ポスター、記事、説明文など多様化するのが特徴です。そのため、速読力を鍛えるだ

けでなく、英文のタイプに応じたリーディングスキルを身につけることが有効になります。

必要な情報を素早く探し出すためのスキニング力はもちろん、ディスコース・マーカーに注目して論理展開を読み取り、概要や要点を把握する力が求められます。さらには、複数の文章や資料を比較対照して、共通点や相違点を読み取ることもできなければなりません。

問題を解く上では、事実と意見を見分ける力の他にも、具体的な内容を抽象的なレベルで捉え直す力、文脈から推測して答える力、要約する力など、『思考力』や『判断力』を試す問題に対処できる力をつける必要があります。授業で共通テスト対策をする際には、答え合わせをして事足りりとするのではなく、正解に至るまでの思考のプロセスを生徒に意識させることが重要です。

一例として、第2回試行調査第6問Aから、第4パラグラフを取り上げて、問題を解く上でリーディングスキルと思考力・判断力をどのように用いるかを見てみましょう。

[4] Despite the expectation that male pilots have better flight skills, it may be that male and female pilots just have skills which give them different advantages in the job. On the one hand, male pilots often have an easier time learning how to fly than do female pilots. The controls in a cockpit are often easier to reach or use for a larger person. Men tend to be larger, on average, than women. In fact, females are less likely than men to meet the minimum height requirements that most countries have. On the other hand, as noted by a Japanese female airline captain, female pilots appear to be better at facilitating communication among crew members.

問3 In Paragraph [4], the author most likely mentions a Japanese female airline captain in order to give an example of [37].

- ① a contribution female pilots could make to the workplace
- ② a female pilot who has excellent skills to fly a plane
- ③ a problem in the current system for training airline pilots
- ④ an airline employee who has made rare achievements

まず、設問のリード文に most likely とあるのに注目し、本文の内容から推測して答える『思考力・判断力』を試す問題であることをつかみます。

次に、筆者の主張が male and female pilots just have skills which give them different advantages in the job であり、それに続けて男女パイロットの強みが On the one hand と On the other hand というディスコース・マーカーを使って『対比』されているということをつかみます。

問いにある a Japanese female airline captain は One the other hand 以下に出てくるので、女性の強みである better at facilitating communication among crew members が、該当箇所であると見抜き、それを言い換えた① a contribution female pilots could make to the workplace が正解であると判断します。「乗員間のコミュニケーションをとりやすくする」という具体的な内容が「職場に対する貢献」と抽象的に言い換えられていると判断できるかどうかのポイントです。

* * *

このように、共通テストのリーディングでは、パラグラフリーディングなどの読むためのスキルと、問題を解くための思考力・判断力が組み合わせられて出題されるので、その点を日常の授業にどのように落としこむかの工夫が大切となります。(ふくざき ごろう・代々木ゼミナール教育研究所主幹研究員)

共通テスト「リスニング」の指導 —今、できること

武藤克彦



2021年1月より「大学入学共通テスト」（共通テスト）が実施されます。「リスニング」に関しては配点の倍増だけでなく、英語音声の聞き取り（読み上げ回数の減少、様々な英語発音）、設問内容・形式（考えさせる問題、正解を複数選ぶ問題）、トピック（より現実的・社会的な内容）などにおいて大きな変化を遂げているのは周知のとおりです。これらに対応するには授業活動において(1)実際の言語使用場面を反映した視聴覚教材を適度に使用しつつ、(2)教室と実社会を橋渡しするような実践的活動に取り組ませ、(3)知的好奇心と感情の両方を呼び起こす質問を投げかける指導が期待されます（武藤，2020）。翻って、実施まで3か月を切った今、必要なのは「短期間で可能な指導」ではないでしょうか。共通テスト「リスニング」は、大問を追うごとに徐々に高度なリスニング力が求められる形式です。したがって、これを踏まえて以下のように大問を分類し、習熟度別にそれぞれに有効な指導や対策を提案してみたいと思います。

初級（CEFR A1～A2：英検3級～準2級程度）

→ 第1問・第2問

中級（CEFR A2～B1：英検準2級～2級程度）

→ 第3問・第4問

上級（CEFR B1：英検2級程度）

→ 第5問・第6問

■初級者向けの指導

リスニングを苦手とする初級者には最初の2つの大問で確実に得点できるリスニング力をつけることが急務です。

第1問は身近な内容に関する短文の聞き取り問題です。イラストの有無にかかわらず、ここで問われるのは「英語の基礎知識」と「発話の意図や状況を把握できる聴解力」です。音声を紹介して英語の基礎を定着させる指導には「部分ディクテーション」があります。生徒の苦手とする項目（語彙、文法、発音）のひとつにフォーカスし、その部分を空欄にした英文を聞かせ、ディクテーションさせます。内容を十分に理解させた後、「オーバーラッピング（聞き読み）」を行います。ディクテーションで用いた音声を流し、英文を見ながら聞こえた音声に重ねて発声するトレーニングですが、その際には必ず発話の意図や状況をイメージさせながら行うよう指導するのがポイントです。

第2問は、身の回りの事柄に関する対話文を聞き取る問題（場面情報とイラスト付き）で、問われるのは「情報を整理しながら聞き取れる力」です。概して一方の発言を相手が Yes/No, Actually など情報追加する流れです。イラストとスクリプトを同時に示しながら、どの発言でどの選択肢が消えるのかを丁寧に説明してあげると、このパターン（消去法）を目で見えて理解することができます。加えて、第2問での得点に必要なのは roller coaster や That's sounds good! のような「日常的に使う語彙」と「平易な会話表現」の知識です。これらはリスト化してまとめて教えるのではなく、対話文のスクリプトを通して、都度確認するのが良いでしょう。加えて、ペアワークを通して対話文を発話させるのは音声認識力の発達につながります。限られた時間でもぜひ取り

入れたい活動です。

■中級者向けの指導

第3問以降は音声読み上げが1回になるので、第1問と第2問に過不足なく対応できる生徒が対象になります。

第3問は対話文を用いたリスニング問題（場面情報と質問文付き）で、「対話の概要を理解できる力」が求められます。対話文には or や but, instead of ... などで、2つの事柄を並列や逆接で述べる特徴が見られます。確実な正解には事前に「質問文を速読できる力」が必須ですが、速読では質問文の趣旨は記憶に残りません。「何を聞き取るべきか？」を瞬時に把握するには、What do the two people agree about?のように「疑問詞＋主語＋動詞」に印をつけ、「何を」「2人」「賛成する」のように3語（または4語）セットで意識的に頭に留めるトレーニングをさせます。逐語訳より記憶の負担が軽減されるので、聞き取ることに意識を集中できます。

第4問は[A]と[B]ともにモノローグを聞き取る問題ですが、英語の分量も増え、複数の話者（アメリカ英語以外の発音）が登場します。第4問では「出来事を時系列に理解できる力」（[A]の問1）と「詳細情報を聞き取れる力」（[A]の問2とB）が試されますが、重点的対策が必要なのは後者です。両題とも表が与えられるので、事前にしっかり目を通して理解（項目の意味など）させる習慣をつけさせます。その後、聞き取った情報を表にメモしていく練習をさせます。本番の音声は1回ですが、[A]の問2については1文ごと、[B]は話者ごとに音声を止めて表に記入させる時間を設けます。仕上がりとして、ひとりの話者を選び、発言内容をシャドーイングさせる指導を行うことでスピードに慣れさせることができます。

■上級者向けの指導

最後の2つの大問は、英語の分量もそうですが、トピック（アカデミック）の点でも負荷が大きいです。短期間では指導や対策の効果を担保で

きないので、時間がない場合は割り切った指導もやむを得ないです。煎じ詰めれば第5問の表を読み取る、メモを取るスキルは第4問の、第6問の対話文の聞き取りは第3問の応用と見なせるので、そちらの学習成果次第ですが太刀打ちできないわけではありません。

第5問は大学講義の聞き取り（前半）と講義のまとめ（後半）から成る問題で、「講義を聞いて概要と要点を理解する力」が問われます。講義形式に慣れさせるには様々な類似問題を用いた練習以外ありません。現時点で入手できる過去問や予想問題は限られるので、他の英語民間試験（TOEFL や IELTS）の講義形式の問題（の一部）などを活用するのも一案です。共通テストよりも難易度が高いので上級者にとっても適度な手ごたえがあります。ただし、問題形式は異なるので、共通テストと同様の問題を準備した方が対策の観点から効果的です。

第6問は日常的な話題に意見を言い合う2人の対話(A)と社会的話題に関する質疑応答(B)を聞き取る問題です。両題とも対話文形式なので上級者は第5問ほど困難を感じないでしょう。ただし、Bには話者の立場を問う問題が出題されるので、I'm not convinced. といった発言から、話者がどちらの立場で発言しているのかを確認して、質疑応答（ターンテイキング）の仕組みを理解させておきましょう。

ここでは短期間であることを前提に指導と対策について述べましたが、生徒が将来必要となる本質的なリスニング力の育成のためにも、冒頭で述べた3つの視点を踏まえた活動もどこかで取り入れたいものです。

参考文献

武藤克彦（2020）「変わりゆく大学入試のリスニング 第1回：大学入学共通テストの「リスニング」と第1問」．『英語教育』2020年4月号．大修館書店．

（むとう かつひこ・東洋英和女学院大学講師）

辞書・学参で発見する新事実 —『G5』『AG』『G 総合英語』から



柏野健次

私も経験がありますが、自分が学生時代に習った英語が実は間違っていたり、不自然だったり、堅苦しい表現だったという事実に後になって気づくことがあります。新しい発見をするきっかけとしては読書中、ネイティブ・スピーカーと話をしている時、あるいは各種文献を調べている時などがあると思います。

本稿では、学校英語に見られる誤った解釈の是正に役立つ情報を、『ジーニアス英和辞典 第5版』(G5),『アクシスジーニアス英和辞典』(AG),『ジーニアス総合英語』(G 総合英語)から5項目取り上げ、それぞれを語法研究の立場から、「補説」という形でさらに詳しく解説していきます(引用部分は必要に応じて趣旨が変わらない程度に修正しているところがあります)。

■as soon as one can と as soon as possible

G5のsoon 項の成句欄に as soon as one can と as soon as possible があり、そこに以下の語法注記が載っています。

《◆ as soon as one can は as soon as possible よりも時間的に余裕があることを表す》
 《◆ as soon as possible は緊急性を表す。
 ASAP, asap と略すとさらに緊急性が高まり「大至急」の意》

●補説 現在発行されている英和辞典は、たいてい「as soon as one can は as soon as possible と同義で、『できるだけ早く』という意味を表す」と

記しています。

しかし、多くのネイティブ・スピーカーは、上の囲みにあるように、as soon as one can は時間的な余裕があることを表し、「できるだけ早く」という意味であるのに対して、as soon as possible は「緊急性」(urgency)を表し、「至急」という意味だと指摘しています。

したがって、次の(1)のように緊急を要する状況では as soon as you can は使えません。

- (1) Call an ambulance as soon as possible [[×]as soon as you can]. (至急、救急車を呼んでくれ) —ネイティブ・スピーカー提供 (以降、出典明記なしは同様)

以下に実例を挙げますが、状況に応じて as soon as one can と as soon as possible が使い分けられていることに注意してください。

- (2) “Meet me there as soon as you can.” “How soon is that?” she asked. (中略) “How about seven o'clock?” (「できるだけ早くそこで会おう」「できるだけって、どれくらい？」と彼女は尋ねた。「7時はどうかな」) —J. Grisham, *The Runaway Jury*
- (3) “This is Perry Mason,” the lawyer said. “I want him to call me on a matter of considerable importance. I’m an attorney at law and I wish to get in touch with him as soon as possible.” (「こちらはペリー・メイソンです」と弁護士は言った。「極めて重要な件で彼に電話してもらいたいのです。私は法廷弁護士で、彼と至急連絡を取る必要があ

ります」) —E.S. Gardner, *The Case of the Blonde Bonanza*

■ at last と finally

AG の last¹ 項の成句欄に at last があり、そこに以下の語法注記が見られます。

《◆ at last は期待と安堵を表すのがふつうなので×At last he got sick. などとはいえない (cf. Finally [In the end] I got sick. とうとう病気になるってしまった)》

●補説 at last は「何かが起こるのを長い間待った後で、それが起きた」ことを表し、「やっと」「ようやく」などの意味で用いられます。一般に、「あることが長時間経て達成された」ことに対する安堵感を伴います。

(1) James has passed his exams at last. ジェイムズはやっと試験に通った) —M. Swan, *Practical English Usage* (初版)

一方, finally は安堵感を表す場合も表さない場合にも使えます [cf. L. Schourup / 和井田紀子共著『English Connectives : 談話のなかでみたつなぎ語』(くろしお出版, 1988) p. 113]. 後者では, 事態の最終局面を強調し, 「結局」「ついに」「とうとう」などの意になります。

(2) Bob was in hospital for a long time and he finally left hospital. (ボブは長い間入院していたが, ようやく退院した)

(3) Bob was in hospital for a long time and he finally died. (ボブは長い間入院していたが, とうとう亡くなった)

at last も finally も単独で用いて安堵感を表すことができます。

(4) “I’ve heard the police just found a clue to solve the case.” “At last [Finally] !” (「警察はその事件を解く手がかりをつかんだようだよ」「ようやくだね」)

ともに皮肉を表すこともあります。Finally!

の方が皮肉と解釈される可能性が高いようです。

なお, at last と finally の類似表現には eventually と in the end があります。2つとも「結局」「ついに」「とうとう」の意味で用いられるのが一般的です。

(5) I wasn’t going to lend him the money, but I eventually [in the end, finally] changed my mind. (彼にそのお金を貸さなかつもりだったが, 結局気が変わつ(て貸し)た) —S. Chalker, *English Grammar Word by Word*

■ even though と even if

G 総合英語の p. 487に次のような例文と解説が載っています。

(1) Even though you dislike big cities, New York is worth a visit. (君は大都市が嫌いだと言っているが, ニューヨークは行ってみる価値があるよ)

(2) Even if it is cold tomorrow, I will go swimming. (たとえ明日寒くても, 泳ぎに行くつもりです)

モデル文(1)の even though (たとえ～であっても)は though の強調形で, 後に「事実」を述べる節が来る。一方, (2)の even if (たとえ～であろうとも)は if の強調形で, 後に「仮定」を述べる節が来る。

●補説 上記情報の典拠としては, Quirk *et al.*, *A Comprehensive Grammar of the English Language* をはじめ数多くありますが, 両者の違いを平易な言葉で解説したものにデビッド・パーカー著『英語じょうずになる事典』(アルク, 2008)があります。次は同書 (p. 44) の記述の要約です。

(3) even though ～は「～のようになっている。それなのに…」という意味。even if ～は「～のようになるかどうかは分かりませんが, もしそうなったとしても…」となる。

even の後に続く文が事実（過去の話やいま起きていること）なら even though を使い、even の後に続く部分がただの仮定の「もしも」の話（主に将来の話）なら even if が正しい選択。

- ・ Even though it was raining, I had to take the dog for a walk. (雨が降っていたけれど犬を散歩に連れて行かなければならなかった)
- ・ Tomorrow's game will not be cancelled even if it rains. (たとえ雨でも明日の試合は中止されることはないでしょう)

教室で生徒に教える場合はこれで十分だと思いますが、教員としては「even though の代わりに even if が使われることがある」という事実を知っておく必要があります。

例えば、Huddleston & Pullum, *The Cambridge Grammar of the English Language* の p. 737 に次の例が挙がっています。私の尋ねたネイティブ・スピーカーによりますと、(4) では is に強勢が置かれるとのことでした。

- (4) You don't have to defend everything Ed does, even if he IS your brother. (エドがあなたのお兄さんだからといって彼のすることすべてを擁護する必要はありません)

このように even though の代わりに even if が用いられるのは if 節に be 動詞がある場合に多いと思います。以下に実例を挙げますが、(5) でも was に強勢が置かれます。

- (5) "Well, that money should belong to us. You've always been very kind to Adam even if he WAS nothing but a bum." (「(アダム)の遺産は当然私たちのものよ。あなたはアダムにずっと親切にしてきたわ。ぐうたら者でしかないのね」) —S. Sheldon, *The Million Dollar Lottery*

■ hardly ... when ~の構文

AG の hardly 項の成句欄に hardly ... when があり、そこに次の語法注記と例文が見られます。

《◆ (中略) (4) when 節には予期しない突然の出来事が来るのがふつう》
I had hardly started when it began to rain.
(出発したらすぐに雨が降り出した)

● 補説 この構文では、hardly は次の(1)に示されているように「ほとんど…ない」ではなく、「かろうじて」(only just) という意味を表します。ここから、この構文の持つ「…するかしないうちに」という意味合いが生じてきます。

- (1) hardly: used to say that something has just begun, happened, etc. (hardly は何かが始まった[起きた]ばかりという意味を表すのに用いられる) —*Oxford Student's Dictionary*

重要なのは、上の囲みにあるように、この構文はふつう「when 節に意外な、予期しない突然の出来事が来る場合」に用いられるという点です。

このため、本構文は「主語が…するとすぐに～が起こった」という場合に使い、「…すると主語が(進んで)～した」という場合には使えないことになります [cf. ジャン・マケーレブ／岩垣守彦共著『アメリカ人語 Part 2—微妙な、ほんとに微妙な英語感覚』(読売新聞社, 1988) p. 45]。

- (2) He had hardly arrived at the office when the fire alarm began to sound. (彼が会社に着いた途端に火災報知器が鳴り始めた)
- (3) × I had hardly got off the train when I called her. (列車を降りたらすぐに彼女に電話をした) cf. I had hardly got off the train when I received a call from her. (列車を降りたらすぐに彼女から(携帯に)電話をもらった)

なお、やや古風な文体では倒置が起きますが、これは意外性の意を強め、劇的な効果を生み出すための措置です。

なお, hardly ... when ～に類似した表現に no sooner ... than ～と as soon as の構文があります。no sooner ... than ～は hardly ... when ～と同様, 意外性がある場合に使うのがふつうですが, as soon as はこの点に関しては中立で, 意外性がある場合にもない場合にも使えます [cf. T.D. ミントン著『ここがおかしい日本人の英文法Ⅱ』(研究社, 2002) p. 176]。

(4) a. *I had no sooner come back home than I gargled and washed my hands. (私は家に帰るとすぐにうがいをし, 手を洗った)

b. No sooner had he passed the message to her than an officer appeared by his side and grabbed it. (彼が彼女にメッセージを手渡したと思ったら警備の警官が彼の近くに現れてそれをひったくった) —J. Archer, *A Prisoner of Birth*

(5) a. As soon as I came back home I gargled and washed my hands.

b. As soon as he sat down the telephone rang. (彼が座るとすぐに電話が鳴った) —*Harrap's 2000 Word English Dictionary*

■ say to oneself

G5のsay項の成句欄にsay to oneselfがあり, そこに以下の語義と語法注記が載っています。

「…」と思う, (心の中で) 考える; 「…」と自分に言い聞かせる 《◆「ひとりごとを言う」は talk to oneself》

●補説 say to oneself は基本的に上の囲みにあるように, 「思う, (心の中で) 考える」「自分に言い聞かせる」という2つの意味を表します。

say to oneself がこのような意味であることは(1)の OALD (第10版) の例文や(2)の LDOCE (第6版) の語義を見ても分かります。

(1) I said to myself (= thought), "That can't be right!" (「それが正しいはずがない」と私

は思った)

(2) say to yourself: to try to persuade yourself that something is true or not true. (何かが真実だと, または真実でないと自分自身に納得させようとする)

以下にこの順に実例を挙げます。

(3) When I looked at the newspaper recently, I saw a number of jobs that require advanced degrees. And I said to myself, "I can do that." (この前, 新聞を見ていて修士号や博士号が必要な勤め口をいくつか見つけた。「自分に打って付けだ」と私は思った) —COCA (Magazine, 2008)

(4) "This is not happening," she said to herself. (「これは現実には起こっていることではない」と彼女は自分に言い聞かせた) —A. Brown, *Legally Blonde*

なお, 「ひとりごとを言う」は上の囲みにある通り talk to oneself で表すのがふつうです。

(5) She was roaming the halls talking to herself. (彼女はひとりごとを言いながら廊下をあちこち歩き回っていた) —COCA (TV, 2018)

ちなみに, say to oneself が「ひとりごとを言う」という意味になることもあります, 通例 aloud や loud を伴います。

(6) "What the hell?" he said aloud to himself when he saw that all the tires on his car were flat. (「何ということだ」と彼は車のタイヤがすべてパンクしていることに気づいた時にひとりごとを言った)

* * *

G5, AG, G 総合英語は私が制作に携わった書籍ですが, これらが現場の先生や高校生の皆さんの新事実発見の手助けになれば幸いです。

(かしの けんじ・大阪樟蔭女子大学名誉教授)

「わからない」を力に変えて



小澤賢司

■英語は不思議でいっぱい

自分自身のこれまでの英語学習を改めて振り返ってみると、そこには常に英語という言葉に対するある種の‘苛立ち’のようなものがあってと思います。「お金」は1円10円と数えられるのに money は数えられない、「それは何ですか？」を What's it? とは言わない、know の k は書いてあるけど発音しない (now と発音が違う) 等々、英語にはわけのわからない規則がいっぱいありました。なんといっても一番の衝撃はアルファベットでした。見本では [a] となっているのに、先生は黒板に [a] と書く。今になって考えてみればたいした問題ではありませんが、当時のわたしにとっては衝撃の連続でした。

■調べれば書いてある

その衝撃が良い効果となって表れてくれればよかったのですが、当時のわたしにとっては負の要素でしかなく、2年近くもの間わたしを英語学習から遠ざけました。日々の英語の授業はまさに暗闇の中を歩かされているようで、自分は今どこにいて、何のためにそれをしているのかまったくわからない状態でした。しかし、高校受験が迫る中学3年生のとき、その闇を照らす一筋の光となったのが辞書であり、文法書でした。

たとえば先にあげた「money 数えられない問題」について、『ジーニアス総合英語』（以下、『G 総合英語』）の Question Box には次のような回答があります。

Q money はどうして数えられない名詞なのですか。100円, 1000円, ……というように数えられると思います。

A お金 (money) そのものは数えられません。

数えられるのは、金額の単位 (dollar, pound, euro など) や硬貨・紙幣の枚数 (100円硬貨5枚, 1万円札2枚など) です。日本語で「お金が3つ」などと言わないのと同じように、英語でも ×three moneys などとは言えません。

つまり、われわれが数えていると思っているのはお金ではなくお金を構成している硬貨 coin や紙幣 bill ということです。事実、coin や bill は通例可算名詞として扱われ、coins / bills と複数形にすることができます。

ほかにも、「one of the + 形容詞の最上級 + 複数名詞」という表現は「最も…であるものの1つ」と訳されるのが一般的ですが、当時のわたしは「最も…」という日本語はそもそも1つを意味するはずだから、そのあとにわざわざ「1つ」とくるのはおかしい」と思っていました。こちらでも『G 総合英語』(p.269) には、「本来、最上級で表されるものはたった1つのものであるはずだが、英語の最上級は1つのグループを指すことがある」(下線筆者)と説明されています。つまり、この表現における最上級は、「最高レベルの」や「最大級の」といったように、単に程度が高いことを示すものです。このような最上級を‘絶対最

上級」とよぶことも文法書で知りました。ちなみに、『ジーニアス英和辞典 第5版』の one 項には It is *one* of the greatest mine disasters of this century. という例文があり、日本語訳は「それは今世紀最大級の鉱山事故の1つである」(下線筆者)となっています。

重くて分厚くてかさばるだけの無用の長物と思っていた辞書や文法書を必携するようになったのも上記のような経験があったからこそだと思います。

■「使おう」とする想い

高校生のとき、インターネットを介して海外の高校生と英語でチャット(ときに通話)をするという授業がありました。しかし、話したいことはあるのにその英語がまったく思い浮かびません。周りのみんなもわたしとほぼ同じ状態でした。その惨事の後、事前準備の時間が設けられるようになったのですが、時間があるとなかろうと、思い浮かばないものは思い浮かびません。これまでの英語の勉強は一体何だったのだろうと途方にくれていたとき、はっとあることに気がつきました。それは「英語を使うために勉強してきていなかった」ということです。料理をしようとしないうちに料理番組をみせても、上達はおろか、そこで紹介された調理行程すら覚えていないことでしょう。第二言語習得研究においてもいわれていることですが、それをやろう、使おう、できるようになろうという想いが強くなればなるほど、それを習得したくなる気持ちも大きくなります。それと連動して「知りたい」という欲求も発露します。わたしはこの出来事をきっかけに英語を使えるようになるために英語と向き合っていこうと決心し(大学進学も決め)ました。

■自らの意志で一步を踏み出す

初年次科目として英文法の授業を担当する際、「その木箱取って」や「窓開けっ放しにしたの

誰?」,「そうそう、最近可愛い彼女が出来たんだよ。彼女の笑顔ってマジで最高でさ。あっ LINE の返事がきた」といった表現を英語にさせることを授業の導入にしています。その際注意していることは次の4点です。①中高で習う語彙・文法に限定する, ②その日教える文法事項を1つ, 2つに絞る(教えすぎない), ③いくつかはあえて会話風の日本語にする, ④辞書や文法書に書いてある例を参考にする。

紙幅の都合上、各項目の詳細は説明できませんので、④に関してのみ付言しておきます。これまでの種々の研究によれば、いわゆる「できる」レベルに達している学習者のほとんどは自主性・自律性を備えているそうです。すごく大雑把に言えば、自分ひとりでも学習できる状態になっているということです。しかし、いくら自主性・自律性の大切さを中高生・大学生に説いてもそう簡単には受け入れてくれません。そのためにはやはり体験が必要です。そこで、辞書や文法書を使って自分自身の力で解決に至る過程とそれを達成したときの喜びを感じ取ってもらえるよう、④の観点を意識しています。

書店にいけば(今では Amazon かもしれませんが)、「学習」と名の付く辞書・文法書がたくさん並んでいます。そう、日本で売られている辞書や文法書の多くは学習するために編纂されたものばかりです。学習者が知りたいと思うことを編集者や執筆者が先読みし、学習者にとって有益な情報を記載してくれています。しかし、かつてのわたしのように、辞書や文法書を無用の長物と思っている人は辞書や文法書の有益さ・便利さに気がついていないはず。駅近の美味しいお店をスマートフォンで調べるのと同じように、英語の「わからない」を辞書や文法書で調べてみてほしいと思います。自らの意志で一步を踏み出すことが真の英語力の育成へとつながると信じています。

(おざわ けんじ・日本大学助教)

情報構造が導いてくれた 新たな英語の世界



西脇幸太

■ there 構文への疑問と解決

いわゆる there 構文の意味上の主語は、定の名詞句ではなく、不定の名詞句でなければならぬ、と高校で習いました。それまでは、「…がある」を表現するための便利で身近な形式として認識していただけに、意味上の主語に関わる新たな規則が加わって、there 構文が遠い存在になってしまったように感じました。と同時に、なぜそのような規則があるのだろうか、と、その理由に興味が湧きました。

その後、大学生になって手にした一冊のおかげで、新たな英語の世界が広がりました。安藤貞雄先生の『英語教師の文法研究』（大修館書店、1983年）です。there 構文の項を見てみると、それまでの限られた読書では出会うことのできなかった情報構造からの記述があり、大変興奮し、一気に丸ごと読み終えました（すぐに続編 [1985年：品切れ] も読み終えたのは言うまでもありません）。

there 構文に限らず、能動態と受動態、SVOO型とSVOA型 [筆者注：いわゆる5文型での第4文型と第3文型の違い]、句動詞の目的語の位置など、それまで、ひとまずバラバラに受け入れてきた事実、情報構造が一本の道筋を与えてくれました。there 構文がぐっと近寄ってきてくれたように感じました。そして、自ら情報を掴みにいくときにこそ、本当の刺激が得られるのだと痛感しました。そう考えると、there 構文へのアンテナが張られていたために、自分の方から there 構文に近寄っていくことができたのかもしれない。疑問が生じたときにすぐに解決できないものもある

と思います。しかし、アンテナを張っておくことで、感動的な出会いが待っているのだと思います。この体験は、現在取り組んでいる言語研究にも大いに影響を与えています。

■当時の自分へのアドバイス

一方、教授者からの支援も重要だと思っています。では、当時の自分にアドバイスできるなら、私は直ちに安藤（1983）を勧めるだろうか、と考えてみますと、少し慎重になります。大学生になって読んだからよかったかもしれないとも思うからです。すべてを与えてしまうのではなく、学習者が欲したときに手を差し伸べる、このタイミングや程度は、実に難しいと感じています。英語教育に携わって13年目になりますが、学習段階に応じた情報提供が重要だと痛感しています。入り口として最適であり、かつ、その先に繋がる情報がしっかりと準備されていて、必要に応じて提示できる、というものが理想だろうと思います。一つの成功例に『ジーニアス総合英語』（以下G総合英語）⇔『アクシスジーニアス英和辞典』（以下AG）⇔『ジーニアス英和辞典 第5版』（以下G5）の流れ（往来）が挙げられると思います。この流れには、入り口から自律への段階的な支援が、信頼できる一本の線に沿って具現化されています（無論、他の学習辞典・教材も効果的に組み込むことが可能です）。

■ G 総合英語での there 構文と、新・旧情報

there 構文について、G 総合英語（pp. 51-53）

では、まず基本の形と意味が提示され、文型に関心を持つ学習者への手当ても Question Box のコラムで適切になされています。そして、pp. 54-5 では「～が…にいる [ある]」の例として、次の 2 例が的確に挙げられています。

- (1) ① *There is a cat on the mat.*

(強調はママ、和訳は省略。以下同様)

- (2) ② *The cat is on the mat.*

続いて、「①の形は、名詞が聞き手の知らない「新情報」[...] である場合に使う」、「②の形では、名詞が聞き手の知っている「旧情報」である場合に使う」というそれぞれの存在意義が明示されています。参照先の p. 172 では、「新情報と旧情報」というコラムで、〈SVO₁O₂〉の文型・〈SVO〉の文型と能動態・受動態の存在意義が示されています。特に、態については、学習者に負荷のかかりすぎない長さの例文を用いながら、文脈まで考慮された記述があります。この他、pp. 152, 158, 594 でも情報の新旧に関する記述が盛り込まれています。

■ AG での there 構文

一方、AG (s.v. there) では、G 総合英語で扱われている内容に加え、**語法**欄には there 構文で使われる名詞に付く the や *There's two patients in the waiting room.* のように複数 (形) の語がきても単数で受ける場合など、さらに進んだ記述があります。具体的には、there 構文で使われる名詞に the が付く場合として、以下の(3)(4)を挙げています。

- (3) a) 新情報となる名詞が of 句や that 節などで限定されている場合：*There is the problem of race in America.*
- (4) b) 相手の気づいていない例をリストアップする場合。その時は「the + 名詞」だけでなく、固有名詞も可能：“What’s worth visiting there?” “Well, *there's* the park, the castle, and the museum.” [...] / “Who’s

going to help us?” “*There's* Bill and John.”

複数の語がきても単数で受ける場合については、(5)の記述があります。

- (5) 『くだけた』では複数の語がきてもしばしば単数で受ける。この場合、通例 *there's* の形となる：[...] *There's* a book, a notebook, and a ballpoint pen on the desk. [...] 《◆このように単数名詞を列挙する場合は *there's* がむしろふつう》。

■ G5での there 構文

G5 (s.v. there **語法**(5)) では、以下の 2 つが加わります。まず(6)タイプと(7)タイプの違いです。

- (6) Across the street *there* is a post office.

- (7) Across the street is a post office.

(6)は「存在を示す文であるが、*there* のない(7)は郵便局を指で示しながら「ごらんの通り」(As you can see, across the street is a post office.) という意になる」のように使用場面が適切に記述されています。次に「**語法**(7)「そこ」を表わす *there* との違い」についてです。

- (8) 次のような「そこ」という意味を表わす *there* との違いに注意 [...] : Come up. There is the ladder. [...] 《◆ The ladder is *there*. の倒置構文》。

とても読み応えのある語法記述です。

■再度、当時の自分へのアドバイス

以上のように、G 総合英語・AG・G5がそれぞれの役割を全うし、自律への支援をしてくれています。当時の私には、まず G 総合英語を差し出すのではないかと思います。そして、「この意味上の主語は the を伴っているのですが」「数の一致が」「類似表現との違いは」などと問いが展開したら、待っていましたとばかりに AG や G5 の記述を示すだろうと思います。きっと、一足早く新しい英語の世界を広げていたことでしょう。

(にしわき こうた・愛知文教大学専任講師)

英語と辞書と友達と…



岡本真由美

高校生の時、通学には片道で2時間かかった。長い電車通学の間は、ぼうっと考え事をするか、読書の時間だった。中でも、辞書をよく読んだ。当時、英語の参考書があまり好きではなかった私は（説明が少なく、問答無用、とにかく覚えろと言われているようで）、辞書を持ち歩いていることが多かったためだ。電車で揺られ、暇にまかせて授業や問題集で気になった語をちらちらと見てみると、その語の出身（語源）や性格（語義）や振る舞い（用例）から「人となり」のようなものが見えるようで、英和辞書は英単語の履歴書のようなものだと思っていた。

そんな辞書は、私の英語学習の最大の拠りどころであった。どこで聞いたのか見たのか忘れてしまったが、誰かの「英語は辞書と心中するつもりで勉強しろ」という言葉をいたく気に入ったこともあり、高校英語の勉強では、とにかく辞書に頼った。何度も何度も引いているうちに、辞書の下半分が膨れ上がってくると鼻膨らむ心持ちになり、前にマーカーを引いた語を再度引いた時は、覚えられない自分に腹を立てた。最後の解説に収められていた名詞の種類や冠詞、文型などの説明は難しかったが、こむずかしい説明を解明するのはちょっと面白かった。

■ *Women in Love*

高校3年生の頃、大学生のお姉さんが英語の家庭教師に来てくれて、ゼミで読んでいたというD. H. Lawrenceの*Women in Love*を一緒に読むことになった。マニキュアが綺麗な人差し指と中指でしゃら・しゃらとページをめくる様子は、親

指と人差し指でバサ・バサと千切れんばかりにめくる私には、とても優雅でかっこよく見えたし、「学校の勉強」のためでなく辞書を使うということに、不思議な感じがしたのを覚えている。

*Women in Love*の最初のページを開いたとたんに、“... their thoughts strayed through their minds”のような表現があり、辞書を引いても該当する訳がわからなかった。読み進められるか心配だと言うと、「大丈夫。辞書を引いて、ここでの意味を想像してみましょう。」と言われた。辞書がくれる意味のヒントで、本に書かれた世界を想像し、「あなたならここをどんな訳にする？」と訊かれるのは楽しく、そして嬉しかった。これまでとは違う、この自由な辞書との関わりは、辞書は正しい日本語訳を教えてくれる教師というよりも、理解や表現のためのヒントを私に与えてくれる助言者のように思わせてくれた。

■ I shall ...

また、辞書は、私が教材以外の英語に出会ったときの拠りどころでもあった。私のいた高校は、当時ではまだ珍しかった帰国子女を多く受け入れていて、私のクラスにも、アメリカやイギリスで10年近くを過ごしたクラスメートがいた。いつもはキャピキャピと女子高生らしい話でじゃれあっていたが、時に彼女たちを通して英語の実際に遭遇することがあった。

ある日、アメリカからの帰国子女Aが、「I shallなんて、この時代言う人いる？ いまどきShakespeareじゃあるまいし。」という、イギリスからの帰国子女Bが、「え、使うでしょう。」

I shall go there ...とか。」と反論したら、Aは「女王様みたい。Britishだねえ。」と返した。そんなに違いがあるのかと辞書で shall を引くと、「shall が用いられなくなってきた地域があって、この辞典ではその代表として〔米〕をあげたが…」とあり、目の前で辞書の記述が証明されていることに驚いた。また、ある時には、「それでいいよ」を、Aは “It’s OK.”、Bは “It’s all right.” と言うので、調べてみると OK はもともと米語だったと書いてあって、英語と米語の違いは本当にあるんだなと、しみじみ納得した。

■ of と off は兄弟

しかし、時には辞書が頼りにならないこともあった。ある休日、前段の友人たちと過ごしていたとき、帰国子女 A が左胸に “Hands off!” と書かれた T シャツを着ていた。どういう意味？と尋ねたら、胸に当てた手をぱっと離して、「手を… 触れるな！って意味だよ。」と言った。なるほど、off は離れるという意味か、「じゃあ、Hands on! だったら触れ!？」とみんなで笑っていたら、帰国子女 B が、「“hands on” って、実際に触れたり、実地でする経験とかを言うんだよ。」と教えてくれた。そういえば off なんて前置詞をわざわざ辞書で調べたことなかったなと、家に帰ってから引いてみたら、off の最初の語義に「離れて」とちゃんとあり、その後も、ある物事から離れたり逸れたりという語義がずらりとあって、off の「人となり」がわかる気がした。ふと、ひとつ前の見出し語 of に目をやると、最初の「…の」という「繋がった」感じの語義に続いて、どちらかという正反対の「離れて」に近い意味があり、最後に「元来は off に対する弱形」と書かれていた。もしかすると of と off は兄弟で、だから「離れて」という似た意味を持っているのかと想像し、思いがけない発見をした気がしてワクワクした。それ以来、辞書で語を調べると、その周辺に兄弟はいないかと、ちらりと見るのが習慣になった。一方、その日帰国子女 B が教えてく

れた “hands on” に関しては、その時は辞書を調べても記載が無かった。友人から聞いたぼんやりした輪郭 (definition) だけが頭に残り、辞書で確認してスッキリしたいのにと少し恨めしい気持ちがあったことを覚えている。

恨めしいと言えば、こんなこともあった。高校生の頃、詩を書くことが好きだった私はちょっと頑張って、英語でも書いてみた。人間愛をテーマにして、愛を作るレシピというコンセプトで書いた詩だった。前段の帰国子女 A や B も読ませていたので見せたら、途端にお腹を抱えて笑いだした。確かに構成はレシピに見立てて面白くはしたが、人間愛というちょっと崇高なテーマのはずなのに、どうして？と訊くと、そのタイトルがおかしいということだ。タイトルの “How to make love” は、どの単語も問題無いように思え、なぜそんなに笑うのかと私は狼狽するばかりだった。ふたりの笑いが収まってようやく、make love の意味を教えてもらって、恥ずかしさに真っ赤になった。あとで辞書を引くと、当時の辞書には「くどく、言い寄る」という意味があるだけで、これじゃあ使っちゃダメって分かんないよ、と詩人志望の多感な女子高生は泣きなくなった。

■汗も恥もかきながら

高校の頃のエピソードを思い出しながらここまで書いてきて、手元の『ジーニアス英和辞典』や『アクシスジーニアス英和辞典』で前述の語たちを調べてみた。どちらの辞書にも、shall は「英米とも shall は古風で…」とある。off は離れるイメージが図解してある。hands-on は「現場での、実地の」という意味で見出し語があったし、make love にはちゃんと「セックスする、愛をささやく」のような記述があった。辞書は確実に成長している。汗も恥もかきながらも、重い辞書をもって通学していた高校生の私（もう40年以上も前だけど）がまた思い出された。心中するならこんな辞書にしたら、とあの頃の私に見せてあげたい。

(おかもと まゆみ・関西大学教授)

進化している 『ジーニアス英和辞典』 —英語のレトリック表現研究の視点から

後藤リサ



筆者が学生の頃に愛用していた『ジーニアス英和辞典』初版および改訂版と、第4版や第5版との用例の違いなどを比較してみると、語法研究の視点から様々な気づきがあり、興味が尽きない。

■ if 節の「隠れた」条件性

以下の(1)(2)は第5版からの抜粋で、いずれも初版には無い用例である。

- (1) *If you are hungry, there's something to eat in the fridge.*

(if 項④；もしおなかが空いているのなら、冷蔵庫に何か食べるものがあります)

- (2) *If you don't know, I won't be in town tomorrow.*

(同上；君が知らないのなら教えておきますが、私は明日には町にいません ※下線は筆者による)

(1)(2)はともに、「言語表現上は見えない」条件性(「もし○○ならば、以下のことを告知する」)にかかわるものである。(2)の訳では、「見えない」条件性を「見せる」ことで、用例が伝えようとしていることを明示しているように感じられる。聞き手の推論に依拠すると思われるこうした「見えない」部分をあえて「見せて」いるところにふと目を奪われるような時、語法を「読み解く」ことへの深いよろこびを感じる。

■ 英語のレトリック表現

筆者は英語のレトリック表現に非常に関心を持っており、これまでに度々研究対象としてきた

が、レトリックという観点からも、初版から第5版までの変遷には大いに刺激をもらっている。たとえば、修辭的な紋切り型表現には、日本語に類例が見当たらないような、面白いと感じられる表現が多数あるのだが、ここでは特に if 条件文の2例を紹介したい。以下の(3)(4)はいずれも第5版からの抜粋である。

- (3) *If that is a diamond, I'm a Dutchman.*

(Dutchman 項成句；それがダイヤだなんてとんでもない)

- (4) *If he is a pianist, I'm Cleopatra.*

(if 項⑤；彼がピアニストだというのならさしずめ私はクレオパトラね)

(3)の例は、初版から掲載されている例である。第5版の Dutchman 項成句(p. 659)には次のように書かれている。

《英やや古》...なんか絶対ある[する]もんか、首を懸けてもいい《◆ if 節または or を伴って強い否定・判断を表す》

*I'm Dutchman.*は、条件文の帰結節として、または or と共に用いることで、もう一つの命題を否定する働きをする。つまり(3)のように if 条件文の帰結節に生起する場合、*I'm Dutchman.*が「明らかに偽」であることが話し手と聞き手の双方において前提とされ、それにより前件の *that is a diamond* もまた「明らかに偽」であることを伝達しようとする、修辭的な条件文である。

一方、(4)は「あなた(彼／彼ら／他)が○○だなんて(嘘を)言うのなら、私は□□であるとい

いますよ」という形式をもち、○○や□□で主語の属性が示される決まり文句として用いられている。つまり、(3)とは異なり、if節と帰結節の両方が揃って一つの修辭的な効果をもたらすといえる。このような例は初版には無く、第4版や第5版ではそれぞれ例文が示されている。第5版のif項(p.1064)には次のように書かれており、その修辭性の一端が皮肉にあることが示されている。

⑤もし...が本当なら...ということになってしまふ(が決してそうではない)《◆話し言葉で用いられる皮肉表現。明らかに真実でない事柄を持ち出して、「...であるはずがない」という強い否定の気持ちを表す》

(3)(4)の事例に共通してみられる修辭性は、that the speaker is a Dutchman (偽), that the speaker is Cleopatra (偽)といった、命題内容が「偽」であることが明らかであること、またそれと同様に、それらに先行する命題が「偽」であることも明らかだと示すことで、先行の命題内容自体をくだらないと揶揄するような、話し手の皮肉的態度が浮き上がってくる点にある。

■日本語対応表現の乏しさ

ここで紹介した2例には類似の事例が多数ある。以下の(5)は(3)と、(6)は(4)とそれぞれ類似している。

(5) If he is a policeman, *I'll eat my hat*.

(6) If he's Irish, *I'm the Pope*.

これら英語の修辭表現が日常会話でも用いられるのとは対照的に、日本語では同種の修辭性を示す表現はなかなか思いつかない。(5)の *I'll eat my hat* については、「(○○が本当だというなら)へそが茶を沸かすわ／三べん回ってワンというよ」などが先行研究において紹介されているものの、汎用性が高いとは到底いえない。このように、日本語に対応表現がほとんど無いという非対称も、筆者が修辭表現に面白味を感じる一因である。

■ニュースになった if you're the Pope...

(4)と(6)の類似例として、ローマ教皇(the Pope)本人が登場する興味深い逸話がある。当時の教皇、ヨハネ・パウロ二世は、親しい人たちには気軽に自ら電話を掛ける習慣があったということを *The New York Times* の1979年5月27日版が報じている。以下に該当箇所を抜粋する。

Then there is the matter of his telephone habits. Until he was finally (and gently) talked out of it, the Pope used to pick up the phone himself to dial his friends around the world. One evening, telephoning his intimate friend Bishop André-Marie Deskur, a fellow Pole, at a Zurich clinic, the Pope casually identified himself. He was told by the Swiss operator that "if you're the Pope, I'm the Empress of China."

(Tad Szulc, "Homecoming For The Pope," *The New York Times*, 27 May, 1979, p. 46)

ローマ教皇がチューリヒの医院にいるデスクル司教に電話をかけた際のことである。スイス人の電話受付係が取り次ぎ、この教皇と名乗る人物に対し、ユーモラスな表現 "if you're the Pope, I'm the Empress of China. (あなたがローマ教皇なら、私は中国の皇后ということになります)" で返答したことがニュースになったわけである。そして、ここからは筆者の想像に過ぎないが、電話受付係による返答が驚きや戸惑いを示す音調で発話されたのであれば、「まさか！信じられない」といった強い否定の気持ちが加味されることになろうか。あるいは、電話を取り次いだのが察しの良い、医院の受付係で、渾身のユーモアであった可能性も棄て切れない。本記事を書いた Tad Szulc 氏に真相を聞いてみたいものである。

(ごとう りさ・関西外国語大学准教授)

教材・テスト作成のための CEFR-J リソースブック

投野由紀夫, 根岸雅史 編著

A5・264頁・
本体2,800円＋税

[評者]
尾関直子



CEFR-J を最大限に活用する

本書は大きく、2つのセクションに分けることができる。CEFRやCEFR-Jに関する基礎的な知識や参照レベル記述プロジェクトについて解説する比較的アカデミックな部分と後半のCEFR-Jを生かした指導、教材作成などを説明する実践的な部分である。

CEFR-Jを知らない人もCAN-DOリストなら、既に中学、高校卒業時の英語教育の到達目標にしたり、年間の到達目標、日々のレッスンに取り入れている教員が多いと思う。そういう教員にとっては、自分が使用しているCAN-DOリストは、どのような背景の下に生まれてきたのか、前半を読めば理解できるようになる。また、前半では、新学習指導要領にCEFRの知見が生かされていることについても言及されている。例えば、従来の「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能の分け方から、話すことが「発表」と「やりとり」に分かれ5領域になったことやCEFRのディスクリプターの「～できる」を学習指導要領では教師の視点から「～できるようにする」と書かれたことなど、両者は非常に関係性が高いことが示されている。

後半は、すぐにでも教材や指導に生かせる情報が多くある。私は、文法指導にはほとんど興味がなかったが、「CEFR-J Grammar Profileを文法指導にどのように活かせるか？」を読み、実際に使ってみたいと思った。このGrammar Profileを使えば、各文法項目をCEFRのどのレベルで導入するのが妥当であるかが明らかになる。(その対応表が本書の巻末に付録として付いている。)例えば、仮定法過去ならば、B1.1-B2.1とある。これは、導入時期はB1.1ぐらいであるが、うまく使えるようになるのは、B2.1ぐらいであることを示している。また、生徒などが書いた英文を入力すると、その英文のCEFRのレベルを文法の観点から推定できるツールについての情報もある。

さらに、「CEFR-J Text Profileをリーディング／リスニング指導にどのように活かせるか？」の章では、入力したテキストの構文や語彙からCEFR-Jのレベルを推定することができるウェブアプリケーションであるCVLAの紹介がある。このアプリを使えば、自分が作成したテキストや現在使用している教科書をコピーして貼り付ければCEFRのレベルが推測できるようになっており、指導や受験対策に活用できる。

本書は、CEFR-Jを教育や研究に生かしたいと考える教員、具体的には、教材やテストを作ったりや生徒の英語の分析をしたりするときに、信頼性や妥当性を持ったものにしたいと考えている教員に有益な情報が満載である。

(おぜき なおこ・
明治大学国際日本学部教授)

英語教育論文執筆 ガイドブック

ジャーナル掲載に向けたコツとヒント
廣森友人 編著

A5・178頁・
本体1,700円＋税

[評者]
笠原 究



英語教育論文の執筆から出版までを網羅した指南書

本書は英語教育論文の執筆から出版までの過程を簡潔に分かりやすく解説した良書である。執筆陣は国内外の著名なジャーナルに論文を発表し、かつ査読者としても活躍している方々である。研究の仕方を説明した類書はあるが、論文がどのように審査され、編集されるのかを査読者側から明かした本は他にない。これから論文を書くようとする人には大いに参考になるであろう。

本書の序論では論文執筆の利点が示される。「研究内容を言語化することでその内容を深く理解できる」と説く。執筆することで、関連文献を調査し、自分の研究・実践を理論面から評価し、次の一歩へと進むことができる。また、採用されれば読者から多様なフィードバックを得ることができる。論文を執筆することは、教師として「主体的・対話的で深い学び」を実践することに他ならない。

第1部の最初には、作文と論文の違いが述べられている。作文では自分の考え等を自由に(時に情緒的に)述べることができる。しかし論文には「問い」と「答え」がなければならない。「問い」は

先行研究を踏まえて設定されなければならない。「答え」には論理性、一貫性がなければいけない。そのためには一定の型に従わなければならないことが説明されている。

第1部の続章では、量的研究論文、質的研究論文、文献レビュー論文、理論論文、方法論論文の特徴が分かりやすく説明されている。自分の書きたい論文がどのタイプになるかの明確な指針を与えてくれるだろう。

第2部は「論文をどのように書くか」がテーマである。論文執筆でまず大切なことは良い「問い」を立てることである。良い問いを立てることができれば、執筆の半分は終わっていると言えるだろう。本書は良い研究課題の立て方について、大変実用的な助言を与えてくれている。

良い文章を書くためには、常に読者を意識することが肝要である。論文を執筆する上で大切なことは査読者を意識することである。第2部は執筆の準備から出版までの過程を丁寧に示している。特に査読者がどのような視点で論文を審査するかに関しての詳しい記述は、執筆上の大きな助けになるだろう。査読者のコメントにどう対処するかの記事もありがたい。

多忙な現場の先生方が論文を執筆することは並大抵のことではない。しかし勘や経験だけに頼らず、自分の実践を理論面から深く掘り下げたいと願う教師にとって、論文執筆は大きな示唆と利益を与えてくれる。その一步を踏み出したいと願うなら、ぜひ本書を手にとっていただきたい。

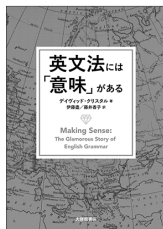
(かさはら きわむ・
北海道教育大学旭川校教授)

英文法には「意味」がある

デイヴィッド・クリスタル 著
伊藤 盡、
藤井香子 訳

A5・258頁・
本体2,500円＋税

[評者]
石黒太郎



英文法教育に欠落している意味と魅力を取り戻す

本書はクリスタルが2012年から4冊出している一般向けの英語に関するシリーズのうち、文法を取り上げた第3作を翻訳したものである。この著者はこれまで英語に関する著作を長年にわたり数多く出してきた、この分野の第一人者である。

20世紀後半には英国でも文法教育が「すっかり消滅」し、多くの人にとって文法は価値のない、面白くないものになってしまった。著者はなぜ英国で文法教育がそのような憂き目に遭うことになったのかという背景を随所に盛り込みながら、英語を母語とする子供がどのように英文法を習得するかを解説し、また文法教育に言語学の新しい知見を融合させれば英文法は魅力的（グラマラス）にすらなると、極めて平易な文体で語る。

本書は29章からなる。10章までは2人の女兒が母語である英語の文法を習得する過程をたどると同時に、文法用語や文法概念の歴史的背景に関する説明を各章で展開する。著者自身が家庭内で経験した微笑ましいエピソードと女兒の発話例が読んでいて愉快である。

11章と12章は本書の後半への導入となる章で、言語そのものにつ

いて語るメタ言語、規範主義が登場する。そして13章からは書名の言葉どおり文法には意味があること、そして文法教育の現場に導入されないままになっていると著者の考える「文法の知識」があれば文法を意味のあるものにできるといことが論じられていく。多義性から意味論、意味論から能動態と受動態、受動態から語用論、語用論から用法、用法から文体…とテーマが次々に入れ替わり、20章では最近研究が盛んな二項熟語表現 binomials まで考察する。

21章から26章は英語史における文法の変化を概観し、世界の英語、インターネットの英語を紹介する27章から29章では規範主義によって文法教育が魅力を失いながらも、2000年以降、規範文法書が急増していることが報告され、最後に文法を魅力的にするための10か条が提唱される。

本書はその原書のもつ軽妙な語り口を十二分に日本語で再現している。「訳者あとがき」にあるように、日本の読者になじまないと判断した原書のコラムや本文をあえて割愛し、通読しやすくしている。原書を読んだ評者も冗長と感じた部分である。他方で英語圏の読者にとっては常識であっても日本の読者にとっては必ずしもピンとこないような事柄や例文には、自然な形でその解説となるような表現が訳文に組み込まれ、訳者おふたりの工夫を感じられる箇所が数多くあった。

本書は英語教育の関係者のみならず、英語に関心のある学生、一般読者に、文法の意味を見直すよい機会を与えてくれるであろう。

(いしぐろ たろう・明治大学教授)

大修館書店の本

◆ CLIL (教科×外国語) でさらに深い学びへ
小・中学校で取り組む はじめての CLIL 授業づくり

柏木賀津子・伊藤由紀子=著
 (B5判・160頁・本体2,500円+税)

◆人種、宗教、性…古今の名作を語り尽くす

引き裂かれた世界の文学案内
境界から響く声たち

都甲幸治=著
 (四六判・224頁・本体2,200円+税)

◆課題解決型の言語活動がこれからの英語教育を変える
タスク・プロジェクト型の英語授業

高島英幸=編著
 (A5判・352頁・本体2,800円+税)

◆生徒のレベルに合わせて無理なく指導できます

リテリングを活用した英語指導
理解した内容を自分の言葉で発信する

佐々木啓成=著
 (A5判・160頁・本体1,700円+税)

◆「国際共通語としての英語」を考えるためのテキスト

英語教育のための国際英語論
英語の多様性と国際共通語の視点から

柴田美紀・仲 潔・藤原康弘=著
 (A5判・208頁・本体2,400円+税)

○

お知らせ

○

小社英語教科書についてのご質問、ご感想などを小社編集部宛にお寄せください。「G.C.D. 教科書 Question Box」で随時ご紹介・ご回答してまいります。

また、小社教科書を使った授業の紹介などのご投稿(郵送のみ)をお待ちしております。(採否のご連絡は致しておりません。また、原稿はお返ししません。)

なお、小社ホームページには小社教科書の内容をご案内しているサイトがございます。ここでは、英語の先生方に役立つ様々な情報も提供しております。

<https://www.taishukan.co.jp/eigo/>

営業便り

▶「右の耳から左の耳」。大学受験における私のリスニング力です。ほぼ頭に入っていない、絶望的な状況でした。▶思い当たるのは高校入学後のスラッシュメタル四天王(メタリカほか)との出会いです。最高に cool なリスニング教材を見つけた、と当時の私は嬉々として聴き耽りました。▶ところがどれだけ聴いても聞き取れないし、何を言っているのかも意味不明の有様。それもそのはず、滅茶苦茶な早口にスラングの多用、教科書にはおよそ載ることのない過激な言葉…、中学英語を卒業したばかりの初級者にはハードルが高すぎたのです。あの時『ジーニアス総合英語』のようなリスニング対策もできる本があれば…。▶もっとも、この経験が活きていると実感することもあります。たとえば意味不明な曲でも内容を類推するため英文の大意を掴めるようになりました。live に参戦する海外のファンともなんとか英語でコミュニケーションになりました。コロナ禍が早く収束し、live に行きたいと思う今日この頃です。



(仙台営業所 寺崎興太郎)

編集後記

▶新型コロナウイルスの感染拡大、突然の一斉休校、東京オリンピックの延期、大雨による各地の洪水、そして首相の退陣で今年は8月までが過ぎました。気ぜわしい秋をお迎えのことと拝察申し上げます。▶この夏、外資系金融会社のIR部門に勤める知人からめずらしく愚痴を聞かされました。米国本社と同じIR部門の従業員が全員解雇されたということです。その説明が、英語圏のオフィスでは社内コミュニケーションだけで済む業務は賃金の安いインド(24時間営業)へ移動させて担当者をなくし、それ以外のオフィスでは従来どおり現地語も英語もできる担当者を残す、ということだったそうです。▶雇用に関わる厳しい話ではありますが、一方で英語圏でも英語ネイティブであることの相対的価値が下がってきたように感じました。なぜかと言えば、すでにIT機器管理などの技術系業務をインドへ移していたという事情もあるようです。▶グローバル化の象徴ともされる英語ですが、このような話を聞くと単純にバラ色とはゆかないようにも思えました。(皐)

Genius・Compass・Departure

英語通信

第66号

2020年10月10日発行
 (年2回発行)

編集人:「G.C.D. 英語通信」編集部

発行人:鈴木一行

発行所:株式会社 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

電話(03)3868-2293(編集部) / (03)3868-2651(販売部)

[出版情報URL] <https://www.taishukan.co.jp> [振替] 00190-7-40504

印刷・製本:文唱堂印刷株式会社

〔本誌のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。〕